

研究計画書

体幹ギプスによる褥瘡発生率の調査

わかば病棟 土井 知栄子

はじめに

我々の施設では麻痺性疾患の股関節脱臼に対する筋解離や骨切り術後に術後の体位保持や疼痛緩和のために体幹ギプスを巻いている。ギプスを巻く時に、褥瘡が出来やすい部位には緩衝材を多めにあてるなど対策をとっているが、それでも褥瘡は発生することがある。褥瘡ができると、毎日の洗浄や創傷処置が必要となり、スタッフの仕事量が増加するだけでなく、子どもにも苦痛を強いることとなる。

そこで、子どもの疾患、体格、緊張の状況、動きなどが褥瘡発生に関係すると考え、過去に体幹ギプスを巻いた子どもの年齢、疾患、術式、ギプスの期間、ギプスの厚み、栄養状態を調査し、褥瘡発生要因を明らかにする。

褥瘡発生を予測し、対策をたて、褥瘡発生をなくすことが本研究の最終の目的である。

目的

手術後、体幹ギプスを巻く子どもの褥瘡発生状況の調査を行い、褥瘡の発生要因を明らかにすること

対象

過去、2010年～2022年の13年間に体幹ギプスを巻いた子ども50～100名

方法

体幹ギプスを巻いた子どもの年齢、性別、疾患（麻痺のタイプ）、BMI、GMFCS、術式、ギプス期間、ギプスの厚み、栄養状態、栄養摂取方法を調査し分析する